2022年3月期

決算説明資料

2022年5月25日

株式会社ジャムコ

証券コード:7408

技術のジャムコは、
士魂の気概をもって

一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。

一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。

一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Jamco
ALWAYS FLY TOGETHER

Contents

SECTION 1 **2022年3月期 決算の状況**

04 | グループ連結P/L
05 | 連結経常利益の前期比差異要因
06 | 連結経常利益の計画比差異要因
07 | セグメント別 売上高・経常利益-❶(前期比/計画比)
08 | セグメント別 売上高・経常利益-❷(前期比)
09 | セグメント別 売上高・経常利益-❸(計画比)
10 | グループ連結B/S
11 | グループ連結C/F
12 | グループ各社の状況

SECTION 2 **JAMCO Vision 2030 及び2022年度計画**

14 | JAMCO Vision2030
16 | 2022年度計画策定の前提
17 | 2022年度経営計画
18 | 業績見通しについて
19 | 需要回復の手応えと業績回復への施策
20 | 事業別見通し(航空機内装品 セグメント)
21 | 事業別見通し(航空機シート セグメント)
22 | 事業別見通し(航空機器製造 セグメント)
23 | 事業別見通し(航空機整備 セグメント)
24 | 中期経営指標
25 | 取り組み中のプロジェクト-❶
26 | 取り組み中のプロジェクト-❷

2022年3月期

決算の状況

SECTION 1

04｜グループ連結P/L
05｜連結経常利益の前期比差異要因
06｜連結経常利益の計画比差異要因
07｜セグメント別 売上高・経常利益-❶(前期比/計画比)
08｜セグメント別 売上高・経常利益-❷(前期比)
09｜セグメント別 売上高・経常利益-❸(計画比)
10｜グループ連結B/S
11｜グループ連結C/F
12｜グループ各社の状況

1 2022年3月期 決算の状況

グループ連結P/L

【単位：百万円】

	FY20（実績）	FY21（計画）	FY21（実績）	前期比（増減）	計画比（増減）
売上高	50,058	40,000	39,078	△ 10,979	△ 921
売上総利益	△ 4,100	4,400	4,358	8,459	△ 41
販管費	6,801	7,700	7,533	732	△ 166
営業利益	△ 10,902	△ 3,300	△ 3,174	7,727	125
営業外損益	△ 853	△ 200	△ 337	516	△ 137
経常利益	△ 11,756	△ 3,500	△ 3,512	8,244	△ 12
特別損益	△ 4,980	300	530	5,511	230
税金等調整前当期純利益	△ 16,737	△ 3,200	△ 2,981	13,755	218
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 13,585	△ 2,400	△ 4,081	9,504	△ 1,681
1株当たり当期純利益（円）	△ 506.46	△ 89.47	△ 152.15	—	—
売上為替レート（円/USドル）	106.64	110.00	111.14	—	—

（注1）計画とは、2022年2月9日の決算発表時の業績予想数値です。
（注2）FY21（実績）の親会社株主に帰属する当期純利益は、2022年4月28日に公表した「繰延税金資産の取崩し及び業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産の取崩しなどにより法人税等調整額1,070百万円を計上したことにより対計画で減少しています。

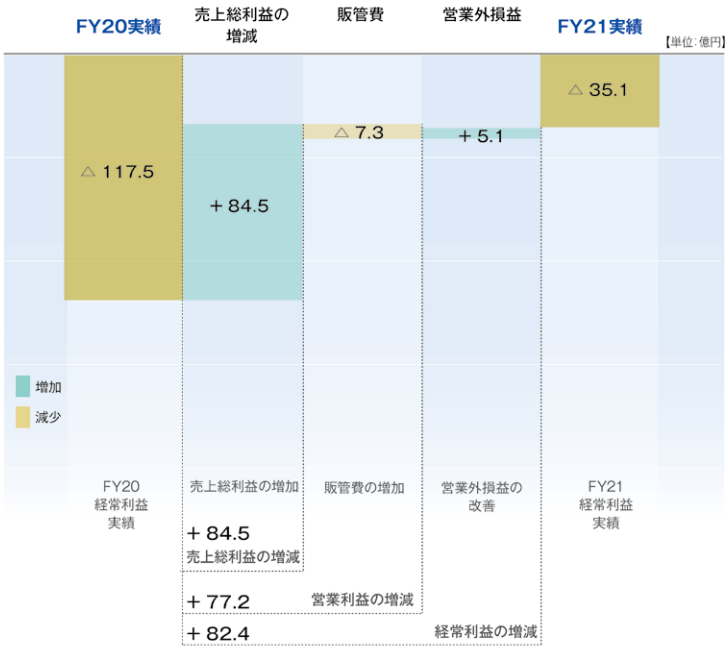
グループ連結 P/L

- 売上高は、前期 500 億円、計画 400 億円に対し、当期実績は 390 億円
  尚、計画数値については、2022 年 2 月 9 日に公表した業績予想数値
- 経常利益は、前期 117 億 5 千万円の損失、計画 35 億円の損失に対し、当期実績は 35 億 1 千万円の損失
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期 135 億 8 千万円の純損失、計画 24 億円の純損失に対し、当期実績は 40 億 8 千万円の純損失
- 当期純損失が計画比で悪化した要因は、4 月 28 日に公表した繰延税金資産の取崩しなどにより、法人税等調整額を計上したことによるもの
- 2021 年度の売上平均為替レートは 1 ドル 111 円 14 銭となり、前期の 1 ドル 106 円 64 銭に対して 4 円 50 銭円安、計画に対しては 1 円 14 銭の円安
- 2021 年度の決算は、前期比で大幅に改善しているが、2020 年度に続き、赤字

2022年3月期 決算の状況

1 連結経常利益の前期比差異要因

■ 前期比　+82.4億円



Point

■ 売上総利益

●新型コロナウイルス感染症拡大による航空需要の落ち込みにより、当社製品の出荷は低迷しているものの、原価低減策の効果や一部プログラムにおいて顧客仕様変更に伴う追加売上などにより改善。

■ 販管費

●試験研究費の増加	△5.0億円
●販売手数料の増加	△0.9億円
●その他	△1.4億円

■ 営業外損益

●為替差損益の改善	+7.2億円
●支払利息の増加	△1.7億円
●その他	△0.4億円

JAMCO CORPORATION　PAGE 05

連結経常利益の前期比差異要因

■ 売上総利益は、新型コロナウイルス感染症拡大による航空需要の落ち込みにより売上高は減少したが、航空機内装品等製造関連における顧客仕様変更に伴う追加売上や、運航機数増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したこと、為替レートが想定より円安で推移したこと、原価低減策の効果などにより、売上総利益は 84 億 5 千万円増加

■ 販管費は、引き続き削減活動を継続しているが、将来の需要回復に備えたビジネスクラス・シート「Venture」の他機種向け製品開発により試験研究費が増加し、損方向に 7 億 3 千万円影響

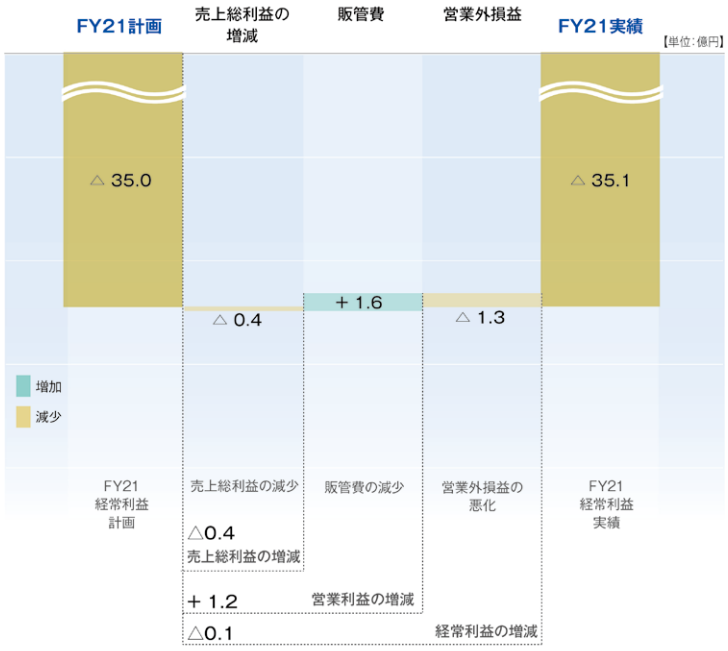
■ 営業外損益は、為替相場が円安に進んだことによる為替差損益の改善などから益方向に 5 億 1 千万円

■ その結果、前期実績の経常損失 117 億 5 千万円より 82 億 4 千万円改善し、当期実績は経常損失 35 億 1 千万円

2022年3月期 決算の状況

1 連結経常利益の計画比差異要因

■ 計画比　△0.1億円



Point

■ 売上総利益

●航空機メーカーの生産調整などにより、ギャレー・ラバトリーの出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどから売上高が減少し、売上総利益は減少。

■ 販管費

●試験研究費の増加	△2.6億円
●保証工事費の減少	+2.1億円
●その他	+2.1億円

■ 営業外損益

●支払利息の増加等	△1.3億円

連結経常利益の計画比差異要因

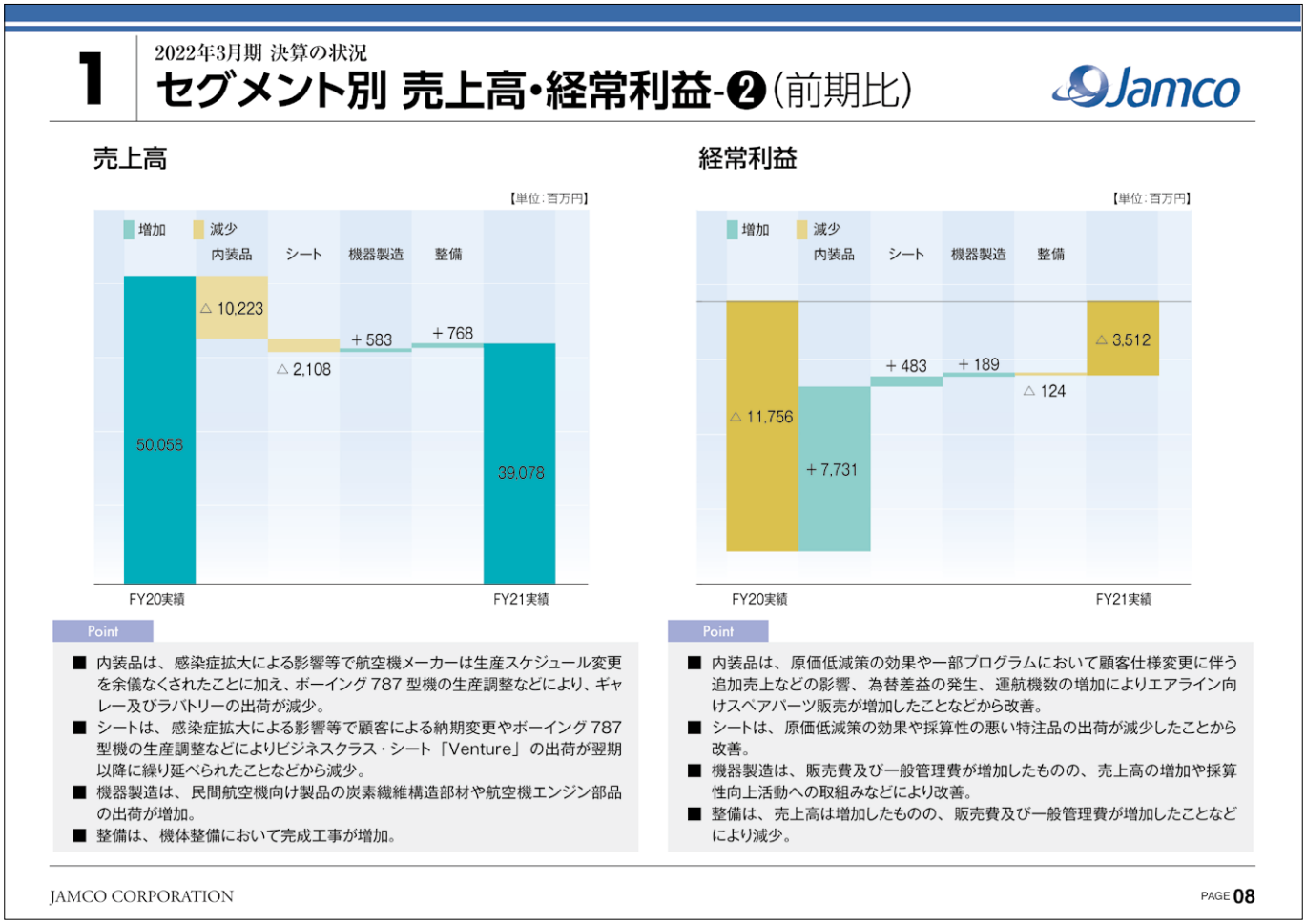
- 航空機メーカーの生産調整などによりラバトリー・ギャレーの出荷が翌期以降に繰り延べられたことに伴い売上高が減少し、売上総利益は減少
- 販管費は、次年度に計画していた試験研究費を一部前倒したことから 2 億 6 千万円の追加発生となったが、保証工事費の減少などにより 1 億 6 千万円の改善
- 営業外損益は、支払利息の増加などにより営業外費用が増加
- この結果、経常利益は減少し、計画値 35 億円の経常損失に対して、実績は、35 億 1 千万円の損失

1 2022年3月期 決算の状況
セグメント別 売上高・経常利益-❶(前期比/計画比)

【単位:百万円】

	売上高					経常利益				
	FY20 (実績)	FY21 (計画)	FY21 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)	FY20 (実績)	FY21 (計画)	FY21 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
航空機内装品	31,108	22,244	20,884	△ 10,223	△ 1,359	△ 8,073	△ 441	△ 342	7,731	98
航空機シート	8,090	5,556	5,982	△ 2,108	426	△ 3,593	△ 2,939	△ 3,109	483	△ 170
航空機器製造	4,330	4,900	4,913	583	13	△ 394	△ 140	△ 204	189	△ 64
航空機整備	6,528	7,300	7,297	768	△ 2	304	40	180	△ 124	140
その他	0	0	0	0	0	0	△ 20	△ 35	△ 36	△ 15
合計	50,058	40,000	39,078	△ 10,979	△ 921	△ 11,756	△ 3,500	△ 3,512	8,244	△ 12

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。



セグメント別 売上高・経常利益（前年同期比）

売上高（前期比増減）

■ 内装品は、感染症拡大による影響等で航空機メーカーが生産スケジュール変更を余儀なくされたことにより、ギャレー及びラバトリーの出荷が減少し、売上高は前期比で 102 億 2 千万円減少

■ シートは、顧客による納期変更やボーイング 787 型機の生産調整などによりビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどから 21 億円減少

■ 機器製造は、民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品の出荷が増加したことにより 5 億 8 千万円増加

■ 整備は、機体整備において完成工事が増加したことにより、7 億 6 千万円増加

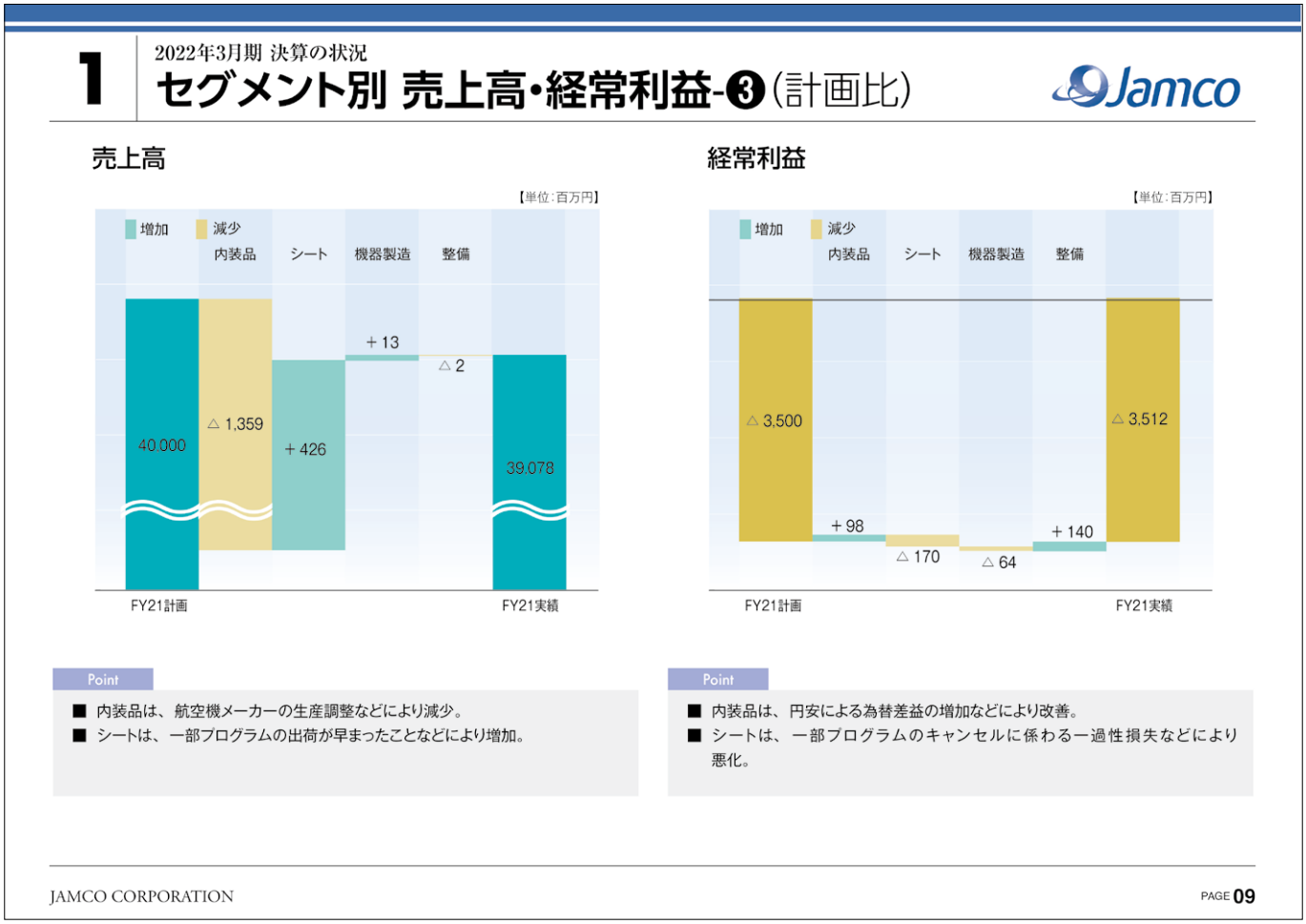
経常利益（前期比増減）

■ 内装品は、売上高は減少したものの、原価低減策の効果や顧客仕様変更に伴う追加売上などの影響、為替差益の発生、運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したことなどから 77 億 3 千万円改善

■ シートは、売上高は減少したが、採算性の悪い特注品の出荷が減少したことに加え、原価低減策の効果により 4 億 8 千万円改善

■ 機器製造は、販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高の増加や採算性向上活動への取組みなどにより 1 億 8 千万円改善

■ 整備は、売上高は増加したものの、販売費及び一般管理費が増加したことなどにより 1 億 2 千万円悪化



セグメント別 売上高・経常利益（計画比）

売上高（計画比増減）

■ 内装品は、航空機メーカーの生産調整などにより 13 億 5 千万円減少
■ シートは、一部プログラムの出荷が早まったことなどにより 4 億 2 千万円増加
■ 機器製造と整備は、ほぼ計画通りで推移

経常利益（計画比増減）

■ 内装品は、円安による為替差益の増加などにより 9 千万円改善
■ シートは、一部プログラムのキャンセルに係わる一過性損失などにより 1 億7千万円悪化
■ 機器製造は、6千万円悪化し、整備は、1 億4千万円改善

2022年3月期 決算の状況

1 グループ連結B/S

【単位：百万円】

科　目	FY20 末 2021年3月31日現在	FY21 末 2022年3月31日現在	増減
〈資産の部〉			
流動資産			
現金及び預金	5,275	9,276	4,000
受取手形、売掛金及び契約資産	21,092	19,199	△ 1,893
棚卸資産	47,408	40,746	△ 6,662
その他流動資産	3,156	2,049	△ 1,106
流動資産合計	**76,932**	**71,271**	**△ 5,661**
固定資産			
有形固定資産	12,782	12,425	△ 356
無形固定資産	1,692	1,282	△ 409
投資その他の資産	9,829	8,671	△ 1,157
固定資産合計	**24,303**	**22,379**	**△ 1,923**
資産合計	**101,236**	**93,651**	**△ 7,585**

科　目	FY20 末 2021年3月31日現在	FY21 末 2022年3月31日現在	増減
〈負債の部〉			
流動負債			
支払手形及び買掛金	3,726	4,248	522
電子記録債務	3,482	2,665	△ 817
短期借入金	48,118	48,156	37
1年内返済予定の長期借入金	1,000	960	△ 40
前受金	5,516	6,241	724
工事損失引当金	4,102	3,828	△ 273
その他流動負債	5,426	4,807	△ 618
流動負債合計	**71,373**	**70,908**	**△ 464**
固定負債			
長期借入金	3,000	2,310	△ 690
その他固定負債	10,346	9,337	△ 1,008
固定負債合計	**13,346**	**11,647**	**△ 1,698**
負債合計	**84,719**	**82,556**	**△ 2,163**
〈純資産の部〉			
純資産合計	**16,517**	**11,095**	**△ 5,422**
負債純資産合計	**101,236**	**93,651**	**△ 7,585**

Point

■ 受取手形及び売掛金は、売上高の減少と売掛金の回収により減少。　■ 自己資本比率　16.0%→11.5%
■ 棚卸資産は、発注計画の見直しなどにより減少。

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年３月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しています。

JAMCO CORPORATION　PAGE 10

グループ連結 B/S

- 資産合計は、現金及び預金は 40 億円増加しましたが、受取手形、売掛金及び契約資産は売上高の減少と売掛金の回収により 18 億円減少
  又、棚卸資産は、発注計画の見直しにより 66 億円減少し、資産合計では 75 億円減少
- 負債純資産は、電子記録債務は 8 億円減少し、長期借入金も 6 億円減少
- 純資産合計は、収益認識会計基準等の適用による利益準備金の減少や親会社株主に帰属する当期純損失等により 54 億円減少
- これらの結果、自己資本比率は 16.0%から 11.5%へと 4.5 ポイント低下

1 2022年3月期 決算の状況

グループ連結 C/F

【単位：百万円】

	FY20	FY21
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,615	6,801
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,104	△ 646
フリー・キャッシュ・フロー	△ 12,719	6,155
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,581	△ 2,570
現金及び現金同等物の期末残高	3,946	8,174

Point

■ 営業活動によるキャッシュ･フローは､売掛金の回収によりキャッシュインフロー。

JAMCO CORPORATION PAGE 11

グループ連結 C/F

- 営業活動によるキャッシュフローは、売掛金の回収や棚卸資産の削減などにより 68 億円のキャッシュインフロー
- 投資活動によるキャッシュフローは、設備投資抑制を行い、6 億円のキャッシュアウト
- これらの結果、2021 年度のフリーキャッシュフローは、前期に対して大きく改善し、61 億 5 千万円のキャッシュインフロー

1 2022年3月期 決算の状況

グループ各社の状況

【単位：百万円】

	当社	新潟ジャムコ	宮崎ジャムコ	中条ジャムコ	ジャムコアメリカ	ジャムコエアロデザインエンジニアリング	ジャムコシンガポール	ジャムコフィリピン	ジャムコエアロマニュファクチャリング	徳島ジャムコ	ジャムコエアロテック	オレンジジャムコ
売上高	36,592	1,532	901	433	5,989	540	0	386	795	750	372	74
営業利益	△1,845	△418	2	△38	△1,009	△42	△125	50	△56	37	16	△20
経常利益	△2,099	△399	△5	△42	△1,141	△35	△131	44	△57	38	16	△19
当期純利益	△5,413	△234	△2	△59	△1,147	15	△124	36	△37	23	6	△13

（注１）ジャムコアメリカは、ボーイング787型機の生産調整などにより売上高が減少。又、今後の見通しを踏まえ、繰延税金資産の一部取り崩しを行っております。
（注２）ジャムコシンガポールは、今後の安定的な生産の見通しが立たないことから、会社清算（解散日は2021年1月31日）。

JAMCO CORPORATION PAGE 12

グループ各社の状況

■ グループ全体で新型コロナウィルス感染症拡大の影響を受けており、特に、内装品・シートの生産拠点である新潟ジャムコ・宮崎ジャムコ・中条ジャムコ・ジャムコアメリカ、機器製造の生産拠点であるジャムコエアロマニュファクチャリングについては、前期と同様に赤字

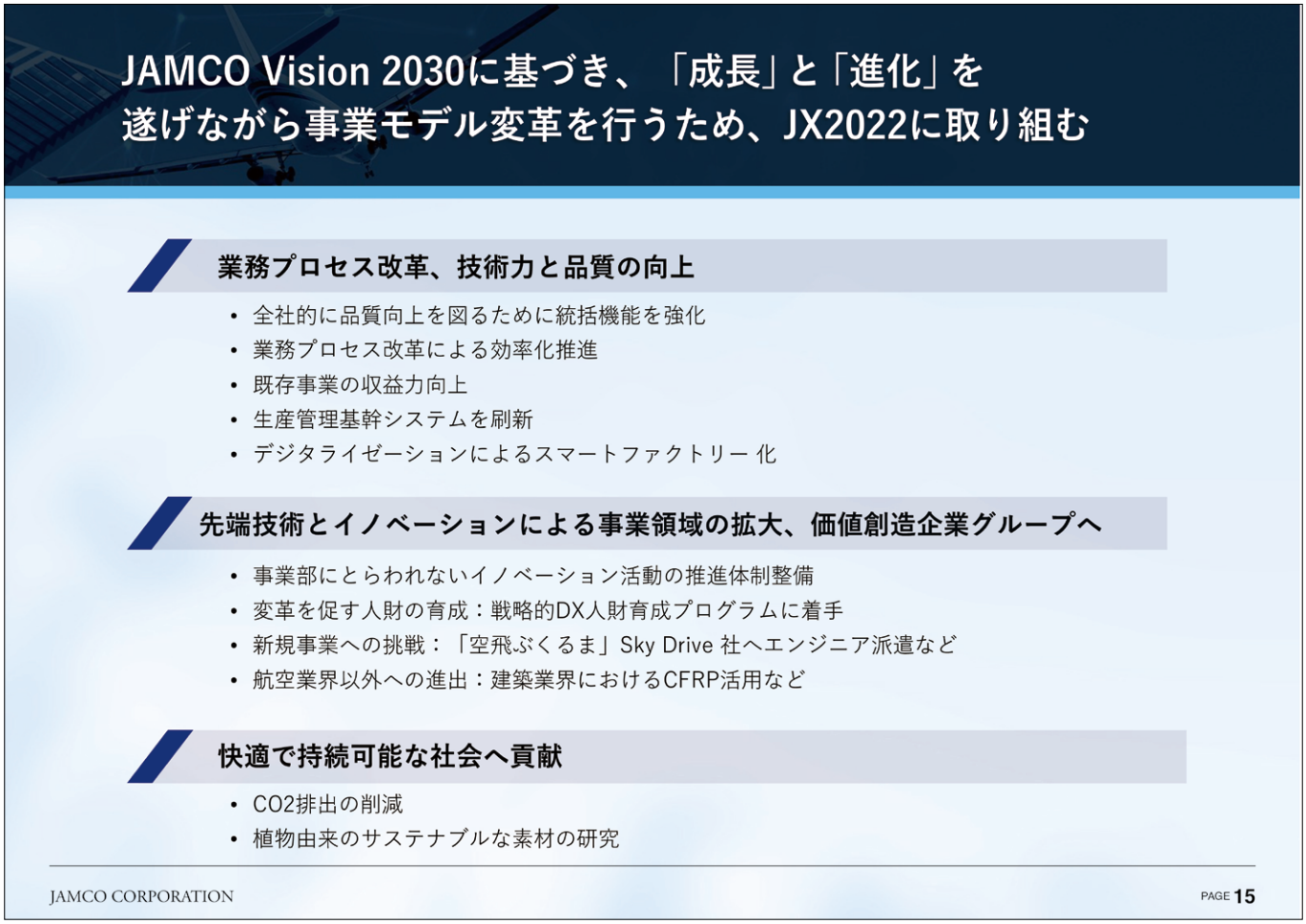
JAMCO Vision 2030 及び2022年度計画

14 | JAMCO Vision 2030
16 | 2022年度計画策定の前提
17 | 2022年度経営計画
18 | 業績見通しについて
19 | 需要回復の手応えと業績回復への施策
20 | 事業別見通し（航空機内装品 セグメント）
21 | 事業別見通し（航空機シート セグメント）
22 | 事業別見通し（航空機器製造 セグメント）
23 | 事業別見通し（航空機整備 セグメント）
24 | 中期経営指標
25 | 取り組み中のプロジェクト-❶
26 | 取り組み中のプロジェクト-❷

SECTION 2

JAMCO Vision 2030

- 当社では、2030 年におけるジャムコグループのあるべき姿、進むべき方向を一つの言葉にまとめ、これを JAMCO Vision 2030 とする
- JAMCO Vision 2030
  「技術と品質を翼に、快適で持続可能な未来へ」
  航空業界を基軸に培ってきた技術と品質を、先端技術とイノベーションにより進化させながら更なる事業領域の拡大を目指し、航空宇宙産業を通じた価値創造企業グループとして、快適で持続可能な社会へ貢献し続ける。
- この JAMCO Vision で掲げた企業グループ像を実現するため、ジャムコグループは、自らを変革・トランスフォームしていく必要がある
- 今年からの 3 年を、当社業務の基礎課題を解決するジャムコトランスフォーメーション 2022 (JX2022) の期間、その次の 3 年を具体的な変革を始動・推進する JX2025 の期間、仕上げの 3 年は変革を拡大・発展させていく JX2028 の期間として、時間軸を意識し着実な改革を進めていく



■ ジャムコトランスフォーメーション 2022（JX2022）の期間に、まず業務プロセスの改革、技術力と品質の向上を実現していく

■ グループ全体の品質向上を図る統括機能を強化するための新組織（安全品質統括部）の設置、従来以上に精緻な分析に基づくマーケティング戦略による既存事業の収益力向上、ERP（生産管理基幹システム）の刷新、営業からアフターサービスまでのプロセスの一元化、生産の標準化・効率化をデジタルで推進するスマートファクトリー計画の着手などが、その一例

■ ESG・SDG sに関連した、社会課題の解決を通じたイノベーションによる事業領域の拡大等、価値創造企業グループに変身するための布石も行う

■ 本年 4 月に本社に新設した技術イノベーション統括部は、各事業部の現状にとらわれないイノベーション活動を推進し、全社横断的な新規事業の検討を行っていく

■ 次世代モビリティへの取組みとしては、既に「空飛ぶくるま」Sky Drive 社様に、当社からエンジニアを派遣

■ 当社の連続成形製法 (ADP:Advanced Pultrusion) による CFRP を使用した建築材の展開など、航空業界以外への進出も加速させる

■ DX を推進する戦略的な人財育成プログラムにも着手する

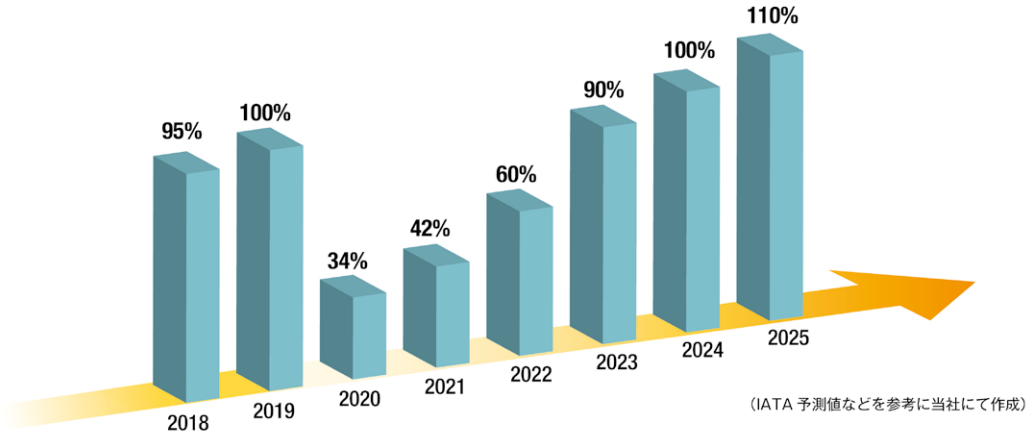
■ 温暖化対策は、喫緊の課題であり、Co2 排出の削減、植物由来のサステナブルな素材の研究などを通じて、快適で持続可能な社会への貢献をしていく

JAMCO Vision 2030及び2022年度計画

2 2022年度計画策定の前提

- IATA(国際航空輸送協会)の予測などをベースに航空旅客需要を予測。
  - 2022年度は、2019年度の6割程度の需要。
  - コロナ禍以前の規模に需要が回復するのは2024年頃。
- 航空機メーカーの新造機生産は、2022年度は横ばい。2023年度以降段階的な増産。
- エアライン向けは、スペア部品や客室改修用内装品の需要が回復基調。

航空旅客需要の回復イメージ（2019 年度を 100%とする）



（IATA 予測値などを参考に当社にて作成）

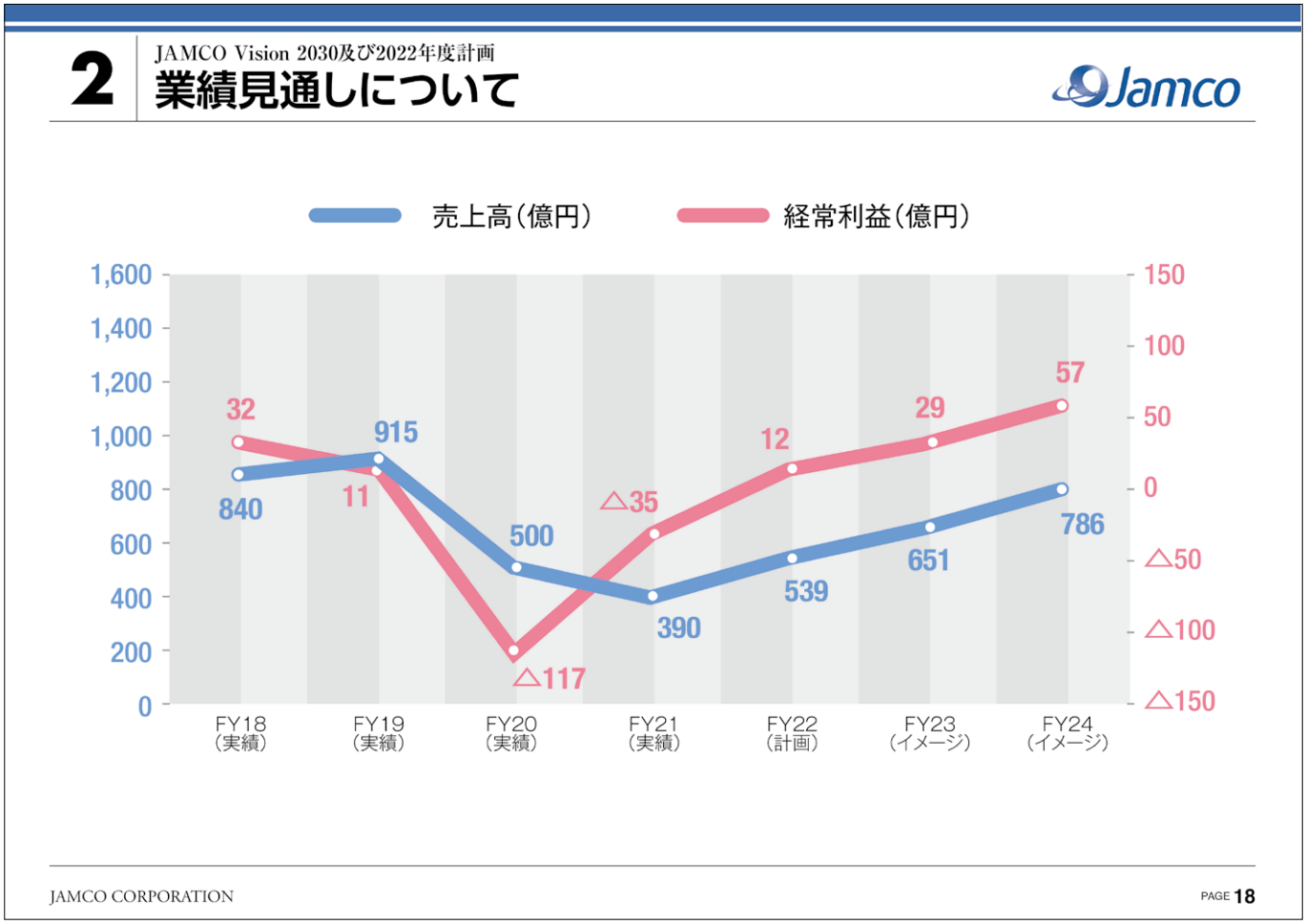
2022 年度計画策定の前提

- 新型コロナワクチン接種の普及により、航空需要は各国の国内線では回復基調が鮮明
- 国際線についてはその兆しは見えるものの、いまだ移動制限が続いている国もあり本格的な回復にはもう少し時間がかかる見通し
- IATA（国際航空輸送協会）等の航空旅客需要予測や、新造機生産スケジュール等を基に中期計画を策定
- 2022 年度は、2019 年度実績すなわちコロナ禍以前の旅客需要に対し 6 割程度に回復
  2023 年度には 9 割程度、2024 年度でコロナ禍以前の規模に回復すると見通している
- 航空機メーカーによる新造機の生産量は、2022 年度末までは横ばい、2023 年度以降は段階的に増産に転じていくことを想定
- 既存機の運行機数の増加に伴い、エアライン向けスペア部品の需要、客室改修用の各種内装品や改修キット需要が回復基調
- 為替レートは、足元では円安傾向であるが、通年 115 円を想定

2022年度経営計画

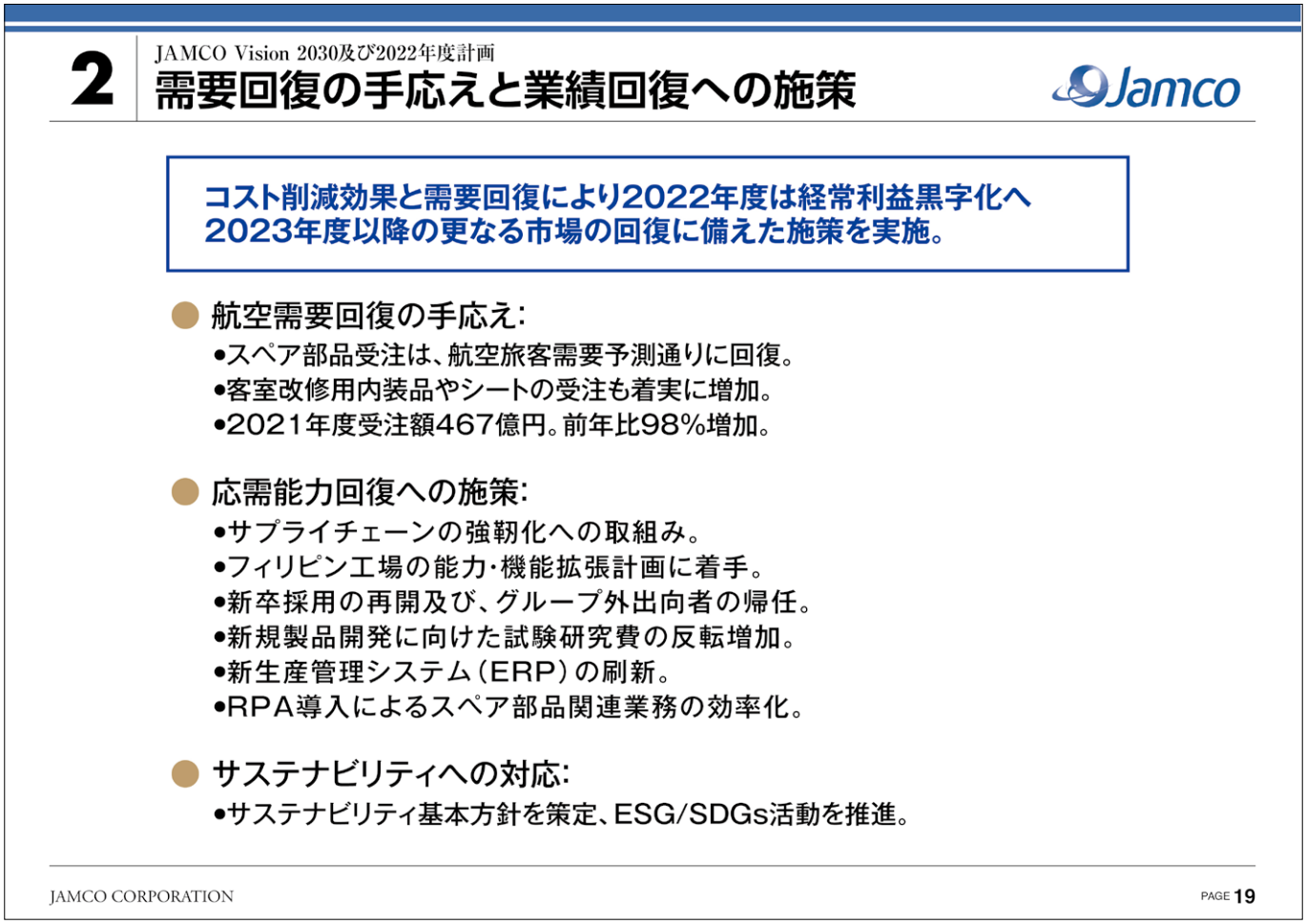
【単位:百万円】

	FY21（実績）	FY22（計画）	FY23（イメージ）	FY24（イメージ）
売上高	39,078	53,900	65,100	78,600
売上総利益	4,358	10,550	—	—
販管費	7,533	8,470	—	—
営業利益	△3,174	2,080	3,840	6,620
営業外損益	△337	△800	—	—
経常利益	△3,512	1,280	2,950	5,710
特別損益	530	△10	—	—
税金等調整前当期純利益	△2,981	1,270	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△4,081	870	2,100	4,030
売上為替レート（円/USドル）	111.14	115	110	110
連結総資産	93,651	94,900	98,500	97,800
営業キャッシュフロー	6,801	△1,200	3,000	8,200



業績見通しについて

- 2022 年度は、売上高は前年度比 149 億円増の 539 億円、経常利益は 12 億円と黒字化を計画
- 2023 年度以降も、スペアパーツ需要の回復や、新造機生産の回復、またビジネスクラス・シートの売上増加などにより、2023 年度には売上高 約 650 億円、経常利益 約 29 億円、2024 年度は売上高 約 780 億円、経常利益 約 57 億円と右肩上がりで推移していく見込み



需要回復の手応えと業績回復への施策

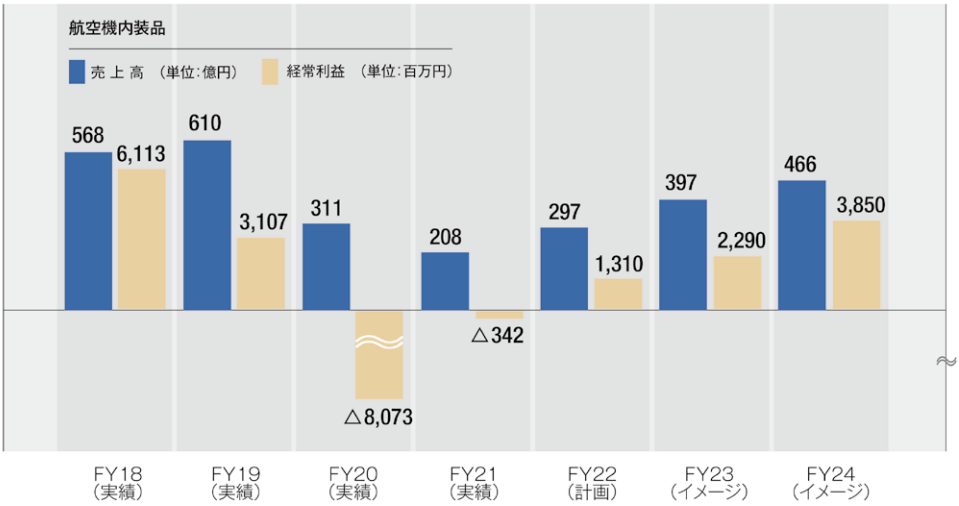
- 本格的な回復にはもう少し時間がかかると見込まれる一方、当社は、航空需要回復の手応えを実感している
- スペア部品の受注は足元ではコロナ禍以前の約 6 割と、航空需要予測どおりに回復してきている
  客室改修用内装品やシートの受注も着実に増加
- 2021 年度の連結受注獲得額は前年比 98%増の 467 億円、これはコロナ禍前の 2019 年度受注獲得額の 64%に相当
- 市場回復の兆しに合わせ、応需能力回復のための施策も実施している
- 規模適正化のためグループ外に出向していた 140 名超の社員は、現在までに大半が帰任し、2023 年度新卒採用活動も再開
- 製造工程においては、今後の更なる需要回復に備え、フィリピン工場の能力・機能拡張計画や国内外のサプライチェーンの強靭化にも着手
- 一部凍結していた新製品開発や試験研究を再開、新たなニーズに応える活動を行っている
- スペア部品関連業務への RPA 導入や、ERP の刷新に取組み、業務効率の更なる改善に取り組んでいる
- サステナビリティへの対応を着実に行い、航空機メーカーやエアラインからの要請にも応えられる体制を整えていく
- 本年 4 月にはサステナビリティ推進のため専門組織を設置、5 月にはサステナビリティ基本方針を策定し社内外に公表
  持続可能な社会への貢献に、従来に増して積極的に取り組んでいく

JAMCO Vision 2030及び2022年度計画

2 事業別見通し(航空機内装品セグメント)

既存機の運航増加に伴う売上と収益の回復

- 航空機メーカーによる新造機生産は2022年度横ばい、2023年度以降は段階的に回復。
- 既存機の運航は回復傾向。スペア部品や改修用内装品の需要が着実に回復。



事業別見通し（航空機内装品セグメント）

■ 新造機生産は、今年度、横ばいの見込み、2023 年度以降は段階的な回復を見込む

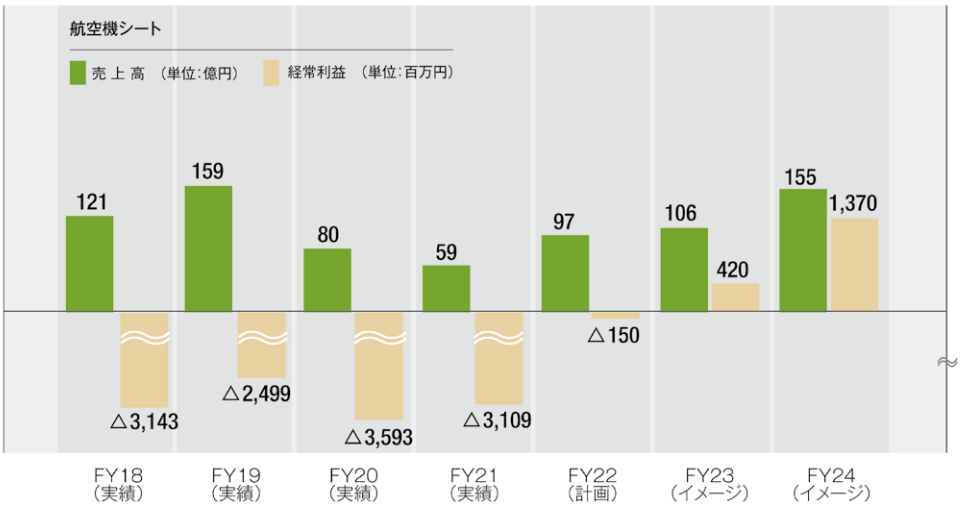
■ 航空機メーカー向けの内装品ビジネスの回復には少し時間がかかる
一方、エアラインが既に保有している機体向けのスペア部品売上や客室改修用の内装品売上は2022 年度から着実に回復すると見込む

JAMCO Vision 2030及び2022年度計画

2 事業別見通し(航空機シートセグメント)

「Venture」の販売拡大による着実な収益化

- 新造機生産スケジュール変更の影響により、経常利益の黒字化は2023年度の見込み。
- 「Venture」の他機種展開及び次期ビジネスクラス・シートの市場投入による受注拡大を目指す。



事業別見通し（航空機シートセグメント）

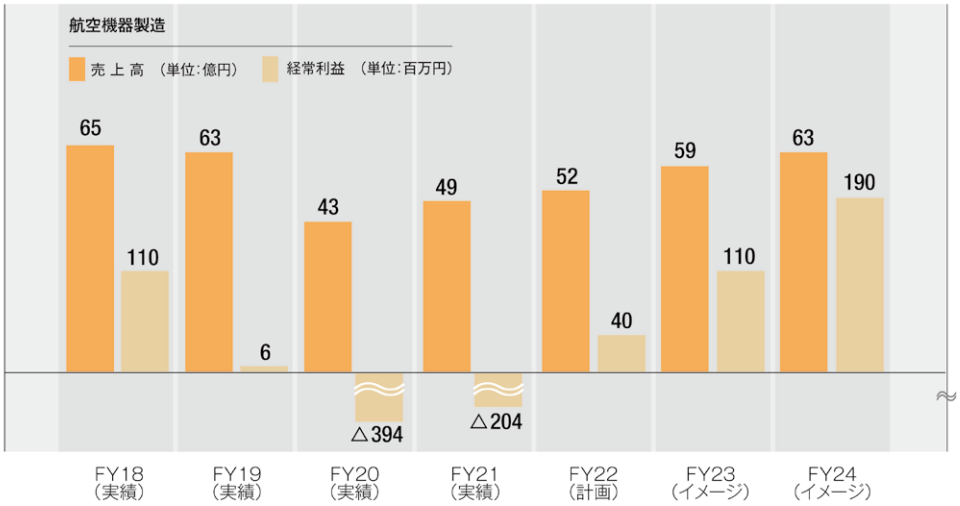
- 新造機の生産スケジュール変更の影響を受け、経常利益の黒字化が 2023 年度にずれ込む見込み
- 特注品の赤字工事案件の出荷は、ほぼ完了している
- 今年度は、スタンダード・ビジネスクラス・シート「Venture」の出荷がメインとなるため、前年度と比べ大きく収益性が改善する見込み
- 引続き 787 以外の他機種への展開、さらには次期ビジネスクラス・シートの市場投入などによる受注拡大を目指す

2 JAMCO Vision 2030及び2022年度計画

事業別見通し(航空機器製造セグメント)

更なる合理化による収益改善

- 製造工程や、製造拠点の見直し等による収益改善の取組み。
- エアバスの機体生産レート逓増に伴う構造部材の売上増加を見込む。



事業別見通し（航空機器製造セグメント）

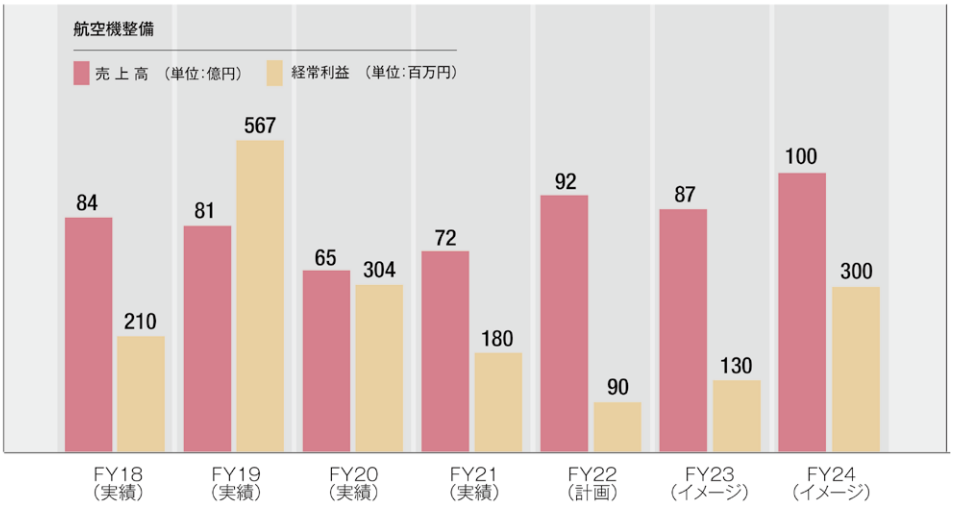
■ AIRBUS の単通路機を含むすべての機種に機体構造部材を製造しており、機体生産レートの逓増に伴う増収に加え、製造工程の更なる効率化等の施策により、今年度の経常利益は、黒字化を見込む

2 JAMCO Vision 2030及び2022年度計画

事業別見通し(航空機整備セグメント)

官需・民需のバランスによる安定的な収益構造の確保

- エアライン運航率の回復等により2022年度は売上増加。
- 2023年度以降、エアライン関連部品整備はコロナ禍以前の水準へ。
- 各種官需ビジネスの取組みにより安定的な収益構造を確保。



事業別見通し（航空機整備セグメント）

■ 2022 年度の航空機整備セグメントは官公庁向機体整備等により前年比増収の見込み

■ 2023 年度以降は、 エアラインビジネスの復調や官需向けの機体整備の増加による収益改善を見込む

2 JAMCO Vision 2030及び2022年度計画

中期経営指標

- 収益性指標 ： 連結経常利益率 7% 以上
- 効率性指標 ： 連結ROA 7%以上
- 安全性指標 ： 自己資本比率 30%以上
- 配 当 方 針 ： 連結配当性向 20~30%
  （財務基盤の強化を優先しつつ、早期の復配を目指す）

中期経営指標

- 各々の目標達成は 2024 年度から 2026 年度頃となる見込み
- 各種施策を着実に推進し、前倒しで目標が達成できるよう尽力していく
- 株主配当については、連結配当性向 20%から 30%を目安に配当額を決定するものとしているが、感染症拡大等によって財務基盤が甚大な影響を受けたことから、誠に遺憾ながら、2023 年 3 月期末の配当は見送らせていただく予定
  一日も早い業績回復を実現し、できうる限り早期の復配を目指す

取り組み中のプロジェクト - ❶

■ コロナ感染など航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔でより衛生的なキャビン作りのため、客室内消毒 (UV 殺菌) 商品の提案や客室抗菌コーティングの研究などを進めている
当社がこれまでに培ってきた内装品に関する技術力の見せどころであり、ギャレー、ラバトリー、シート等への展開を見据え研究・提案を継続していく

■ パーソナライズド・サウンド・ゾーン技術は、ヘッドホンを使用せず、耳がオープンな状態で、特定のエリアに限定して音を再生する技術
音漏れを気にせず快適なフライトを提供できる航空機シートを NTT ソノリティ社と共同開発中
この技術を用いた航空機シートはヘッドホンの配布、回収、消毒等も不要で、脱プラスティックやゴミ削減の効果も期待できる

CFRP部材の建材への展開

- 大成建設(株)が独自開発した
  防振遮音構造「T-Silent® CFRP Frame」に
  当社ADP製法によるCFRP部材が採用
- 施工性向上: 軽量化により、
  重機不要・工期短縮に貢献

ADP (Advanced Pultrusion)
製法によるCFRP

CFRPを用いた 防振遮音構造フレーム

新規ビジネスクラス・シート Quest for Elegance

- スタッガード型のビジネスクラス・シート開発による
  商品ラインアップ拡充
- iFデザインアワード2022受賞
  (プロフェッショナル・コンセプト部門)

取り組み中のプロジェクト - ❷

■ 大成建設様が独自開発し、5 月 11 日に公表した、優れた遮音性能と施工性向上を両立する防振遮音構造には、当社 ADP 製法による CFRP 部材が採用された
軽量な CFRP 部材を採用する事で、クレーン等を使用する必要がなく工期の大幅な短縮が期待される

■ ビジネスクラス・シートは、「Venture」の他機種展開に加えて、次期ビジネスクラス・シート「Quest for Elegance」の開発にも着手している
「Quest for Elegance」は、本年 4 月、ドイツの「iF デザインアワード 2022」を受賞、当社の技術とデザインを高い次元で融合させた製品づくりが評価された